

ACIC 人工内耳冬期セミナー — 『人工内耳両耳装用』と『小児の学習とナラティブ』 —

平成 29 年 2 月 4 日（土曜日）10:00-16:00

東京医科大学 自主自学館 3 階 大教室

- 10:00 開会
- 第一部 人工内耳における両耳装用の現状
- 1 : 両耳装用の当科の現状
 - 2 : メーカーごとの両耳装用の現状
コクレア社
メドエル社
A B 社
- 第二部 両耳装用者の経験談・シンポジウム

昼食

- 13:00
- 第三部 学習言語の評価 -ナラティブを用いて-
- 1 : 学習言語の問題とナラティブ評価の意義
田中裕美子（大阪芸術大学 初等芸術教育科教授）
 - 2 : 聾学校生徒におけるナラティブ
大原重洋（聖隷クリフトファー大学 言語聴覚学科准教授）
 - 3 : 人工内耳装用児におけるナラティブ
野波尚子（東京医科大学 言語聴覚士）

第四部 特別講演

Douglas Petersen

（ワイオミング大学 コミュニケーション障害学科 准教授）

“Using Narrative-Based Language Intervention to Improve the Oral and Written Language of Children with Cochlear Implants”

思考や学習のための学習言語（Language for Learning）は、生後すぐから始まるコミュニケーション言語の習得を土台にして幼児期後半より習得が始まるが、その躰きは日常の会話ではわからない。そのため、就学後の学習の躰きは本人の努力不足として捉えられがちであるが、実は学習言語の弱さのためということが少なくない。今回、学習言語の一つであるナラティブ（語り）を用いた評価法を紹介し、その意義について事例を通じて説明する。また、ワイオミング大学准教授 Douglas Petersen 教授は、近年開発した PEARL（読みやナラティブの問題の早期発見のための検査法）やナラティブを用いた指導法について解説する。